



然モ其力能ハサル諸種ノ事業ヲ計画セリ
 大ニ夢想視シテ之ニ雷同セシムル
 一ニ諸般ノ事業ヲ擴張シ人民モ亦
 茲ヲ以テ上下勇躍政府ノ所謂戦後
 ノ名譽ヲスルヤ
 ナル最モ愉快ナル境遇ニ達セシム
 ヲ併ニ益々進テ其雄ヲ世界ニ競ハ
 揚彼南米諸國ヲ自レ改メ列強ト
 日清事件ハ國ヲスル我ク國威ヲ中
 意見書寫未成環若向甲
 意見書寫未成環若向甲



414
A 411

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄附



今ヨリ之ヲ視レハ其舉ヤ總テ躍起ニ過キ隨テ
事業悉ク粗大ニ失レ將來却テ蹉躓ヲ来シ大ニ
困疲ヲ招クノ憂ナキヲ保セズ既ニ今日ニ於ケ
ルモ國家ハ豫算ノ費目既ニ成ルモ諸般ノ供給
其踵ヲ繼カス為メニ事業ヲシテ其計畫ノ如ク
進捗セシムルヲ能ハス人民モ亦既ニ事業ニ着手
シテ資本之ニ繼カス為メニ其維持ニ困ルノ現
象ヲ呈ス豈ニ戒心セサルヘケンヤ
目下我國ノ人心ヲ觀察スルニ其上トナク下ト
ナク悉ク皆痛ク將來ヲ憂苦シ甲乙相集マレハ

則チ日ク戦後経営ノ成蹟如何ト兩下相會ス
レハ復タ日ク今後経済界ノ大勢如何ニシテ社會
ノ總テハ悉ク皆疑懼心ヲ以テ滿クサレ殆
五里霧中ニ彷徨セシモ、如シ豈ニ可思ハ兆
ナラスヤ
故ニ今ヤ政府ハ太ク其事業ノ酌量伸縮シテ大
ニ刷新整備ノ期ニ其進テ伸スヘキモ、伸ハ伸
其退テ縮ム得ヘキモ、ハ之ヲ縮ムルハ其方針ノ
取リ自今大ニ國家經濟ノ基礎ヲ固クシ以テ人
心疑懼ノ念ヲ去ル以テ國民義奮ノ氣性ヲ喚起

セヤルハカラス然ラサレハ國家ノ憂害将ニ且
夕ニ奈セントス而シテ目下我國政治上其刷新
ヲ要スルモノ少ナカラスト虽凡就中其最モ急
ナルモノ二三ヲ選ビ電覽ニ供シ切ニ閣下等ノ
採擇ヲ請ハシトス

一 治水事業

本邦ノ地形素ト南北ニ長ク東西ニ狭シ故ニ其
河流モ概テ二派ニ岐レ一ハ東南ニ他ハ西北ニ
特ニ其地質皆硬土ニシテ雨水地中ニ浸滯セズ
之ヲ曰フ時ニ汎濫スルヲ常トス是レ本邦恒水害

年ニ多ク人民其害ニ堪ヘザル所以ナリ
我國從來治水ノ業講セザルニテアラス之ヲ維新
後ニ徴スルモ既ニ其資ヲ投スル實ニ一億二千
万円余ナルハシ然凡其經歷ヲ考フレハ明治ニ
十二年頃ニ至リ頓ニ其歩ヲ止メ以來遂巡却歩
復タ進マズ其増加スルモノハ殆リ臨時費ハ
ナルノミナラズ水害年ニ益々多ク其慘状愈々
是レカラントス思フハ臨時費ノ増加ハ年々水
害多ク為メニ復旧工事等ノ多キヲ証シ水害ノ
多キハ經常費少ク為メニ治水事業完全ナラ

ルヲエヌモノナリ故ニ今ニシテ之カ善後策ヲ
講セサレハ遂ニ國家ト人民トハ其負擔ト損害
ニ堪ハス用國爲メニ沼地ト変スルニ至ルハシ
而シテ其方法他ナシ大ニ今日ノ治水方針ヲ刷
新シ河心ヲ改良シ水懷ヲ矯メ併セテ堤防ヲ増
築スルノ三大方針ヲ実行スルニ如クモノナシ
然レ此業ヤ容易ニラスシテ其資殆ニ十ニ億
ヲ要シ地方ヲシテ其半ヲ負擔セシモルニ國庫
ノ負担猶ホ一億ヲラントス
目下本邦ノ財政事情ヲ案スルニ驟ニ一億以上ノ

増支出ヲ許サス然レ此治水事業モ亦在再此終
歲月ヲ空過スルヲ許サス故ニ奈何ニシテモ特
ニ其財源ヲ求メ其急ヲ救フノ方法ヲ講セザル
ハカラス而シテ之ヲ求ムル途他ナシ特ニ政
府並精ノ許ニ立ツ一ノ鐵道公社ヲ起サシメ之
ニ鐵道敷設法中ニアル豫定線ヲ敷設スルノ義
務ヲ負ハシメ猶ホ之ニ加フルニ官設既成鐵道
ヲ掃下ケ其代金ト彼ノ鐵道公債未募債額トヲ
轉シテ治水費ニ充ツル一策アルノ如ク
本邦ノ治水事業優ニ其成效ヲ期ニ得ルノ

いさうラス國庫財政太々餘りアラス人民ノ資力
率ハ裕カナル今日鉄道事業ニ幾層ノ進歩ヲ見
ルテ得ニ豈ニ一挙兩得ノ策ニアラスヤ但早
見ヲシテ尚夫分ナラシメニハ更ニ進テ鉄道
公債未募集額ヲ治水費ニ充テ他ノ拂下金ハ現
今ノ鉄道ヲ廣軌ニ改築スルノ資ニ用ニルニ足
リ國家若シ常氣アツテ併セテ本案ヲ新行セハ
將來我國ノ利益蓋シ甲者ニ幾倍徒スルモノア
ラズニ
北海通ノ政治
水事業ヲ亦再此

北海通ハ所謂本邦北門ノ鎖鑰其開拓ハ一日
忽諸ニ付スハカラス故ニ政府ハ維新以來之
資ヲ投スル既ニ殆ニト一億圓ノ巨額ニ至ラン
トス而シテ其成跡如何ニテ顧ミレハ寧ニ蹉跎
多ク其賞讃又ヘキモ殆ニト少ク特ニ日清
事件以來人心驟ニ南ニ走リ復タ北ヲ顧ミルニ
違アラサルカ如シ然ルモ尚存茲此俟歲月ヲ空
過セハ他日大ニ嗟喟ノ悔アラコト故ニ今ヤ政府
ハ該通ノ政治ヲ刷新シ大ニ人心ヲ鼓舞スルノ
方法ヲ講セザルハカラス而人其方法ハ先ツ該

通ヲ三四、畫シ之ニ縣制ヲ施クト今時ニ北海
通府ノ廢ニ其縣ヲシテ一二ノ代議士ヲ選出セ
シメ競議勅治以テ其責ニ任セシムルニアリ斯
ノ如クセハ人心斯ニ振ヒ輿論為メニ動キ北門
ノ經營期年ナラヌシテ成ラニ特ニ台灣ノ政度
ニ比スルモ北門復ク斯ノ如クナラザルハカラ
ス
三台灣ノ政治
台灣既ニ我カ版圖ニ版レ之レニ制度ヲ施キシ
以來之ヲ變更スル然固而シテ未ク雷テ其適當

ナルモノヲ見ス然ルニ其政治既ニ腐敗シテ復
ク聞クヲ忍ヒナレノ醜作ヲ暴露ス茲ヲ以テ台
灣批政ノ声曰ニ益、高ク時恰モ策士ノ奇貨棄ス
ヘキ所ナリ拓殖務有廢スベシト云フニ至シ
リ豈ニ痛嘆ノ至リナラスヤ
然レ氏吾輩ヲ以テ之ヲ視ルハ一其要領ヲ得
タレモノナキカ如シ台灣ノ政治之ヲ因循ニ整
備スル能ハザル豈ニ拓殖務有アザルノ故ナラニ
又該土ノ政治腐敗シタレニ豈ニ制度其物ノ罪ナ
ラニヤ甲ハ統治日尚淺ク其制度未ク完備ナク

カスセハ事總ヲ革創ニ出テ吏員其人ヲ選ク
違アラカリレカ故ニシテ人事總ヲ創始ノ際ニ
於テ多ク免カル、能ハカニ數十リトス故ニ今
日ニ於テ該土ノ制度ヲ其根底ヨリ改革セント
スルモノハ抑モ不可ナリ況ニヤ拓殖務省廢止
論ニ於テ才ヤ要ハ只總督府ヲ廢シ文政ト軍政
トヲ分置セシメ文政ハ拓殖務省ヲシテ之ヲ統
ヘシメ軍政ノ事ハ陸軍及ニ海軍ヲシテ治メレ
ルニナリ

務省總督府ヲ廢シ總督府復々拓殖務省ヲ設ケル
トスル嫌ヲキ乎又本省吏員ト民政局長吏員ト若クハ
民政局長ト軍政局吏員ト相軋轉ノ兆ナキ乎是レ皆
文政ト軍政ト相混交スルノ弊ヨリ来ルモノナリ
今日該土ノ事情ニ於テ軍事的政治スヨリ必要ナラニ
然レモ文事的政治モ亦欠クヘカラス故ニ該土ノ政治ハ
彼ノ北海道ノ現制ノ如ク軍事的政治ト文事的政治ト明
覺ニ分置セシメ甲ハ直ニ陸軍及海軍ニ屬セシメ乙モ令
シテ拓殖務省ニ隸セシムルモノナラセハ庶幾ハ今日ノ弊
ヲ矯メ得ルベクナラズ又該土ノ副度ヨリテスレテ其緒ニ

孰キ奸官汚吏随テ其跡ヲ晦ニサシ
勇断ナル明治政府ハ維新以來廢藩置縣ヲ断行シ四民ノ
階級ヲ廢シ及ヒ國民皆兵ノ制ヲ施キシノミナラズ明治
廿三年ニ至リ更ニ進テ憲政ヲ断行シ我國ノ旧俗ハ之ヲ
壞廢刷新ノ甚ク容易ナリシカ如シ然レド拓殖事業ニ至
リテは後未失政蹉跎特ニ多ク今ニ國民ヲシテ安心セ
シメザルモノ甚ク多シ然ルニ今ヤ我國日清事件ノ結
果更ニ一層其拓殖ニ手腕ヲ要スル台湾ヲ加フ豈ニ我
カ拓殖政治重カラヌヤ今輩ハ今ヨリ六七年前既ニ北
海道置島主論ヲ主張セシマリ是レ必竟北海道ノ

拓殖事業振ハサルノ感慨ニ基因ス今ヤ我國台湾ヲ得
ルト共ニ新ニ一ノ拓殖務者ヲ置キ北海道ヲ併テ之ヲ
統治セシム是レ素ヨリ必当ノ措置ナリトス然ルニ以
来三四年ヲ越ヘサル今日ニ於テ輕早ニモ之ヲ廢スヘ
シト云フモノアルニ至ル豈ニ痛嘆ノ至ラヌヤ若シ
如斯セハ南北兩土ノ統治ハ如何ニスルカ北海道ハ復
ヒ之ヲ内務省中ノ一局部ニ屬セシメ台湾モ亦如斯首
尾振ハサルノ有様ニ供ラシメンノミ豈ニ詢ニ兩土ノ拓
殖進歩ヲ望ムノ真意ナラシヤ故ニ曰リ拓殖務者廢ス
ハカラサルノミナラズ諒者ハ我國各省中最モ其手腕

ヲ要スル一者ナリト然ルニ今ヤ斯ノ如キ盲説ヲ聞ク
豈ニ國家爲ノ之ヲ排斥セシテ止ムヘケニヤ
右早見ヲ陳シ電覽ニ供ス尙詳細ノ如キハ他日函陳
ノ期アルヘ乙仰キ願クハ採擇アラシクテ敬白

明治三十年八月一日

衆議院議員 福田久 松

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 衆議院議員 and 福田久）

壁氏版印行